

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175100898		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	新座グループホームそよ風		
所在地	埼玉県新座市堀ノ内1-3-32		
自己評価作成日	平成 29 年 1 月 12 日	評価結果市町村受理日	平成29年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成29年 1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事に楽しみが持て、自分で選択する楽しみが持てるように、毎月バイキング(昼食・おやつ)を実施している。また、移動パン(月1回)も継続して取り入れている。誕生日は外出し、好きな食事、好きなケーキを選んでもらっている。また、毎月のお便りとお手紙も郵送し、生活の様子をご家族に報告している。入居者のみなさんが安心して生活ができるよう、コミュニケーションを意識し、毎日笑顔を引き出せるよう関わっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所、利用者が地域とつながりながら生活できるよう、食材の多くを地域のスーパーや近所の店から購入している。日々の会話や挨拶から、配達の方や店員とは馴染みの関係となった。向かいにある保育園とは、近年交流が深まり、利用者が保育園のひなまつりに招待してもらったり、園児が事業所に遊びに来たりの関係が続いている。保育園からの声掛けにより、今では、園庭は利用者の散歩コースの1つとなっており、利用者は散歩の途中で園児たちと話をしたり、姿を眺めて楽しい時間を過ごすことができる。管理者は、職員の言葉使い、記録の文章などからも、気持ちの変化を感じとれるよう努め、職員一人ひとりの声を聞けるよう、面談のようにかしこまった席ではなく、何となく打ち明け話ができるような雰囲気作りの工夫をしている。職員の成長には、育て方や待つ時間も大事と考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念及び各ユニット毎の介護方針を掲げ、実践を心掛けている。	事業所理念については事務所に掲示し、職員が何時でも確認できるようにしている。新人には、理念を「大事にしていること」とわかりやすい言葉で伝え、職員皆が理解し、その方向に動けるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事やレクリエーションの一貫として、近隣の商業施設を利用している。保育園とはひな祭り、運動会等、定例の関わりはできている。	近くの保育園とは、行ったり来たりの交流がある。食材の多くを地域のスーパー、商店から購入して、配達してもらったり、近所の店には、利用者も一緒に買い物に行っている。催しの際、町内会から備品を借りることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来られた方を中心に相談に応じ、適宜介護方法のアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見を前向きなものとして捉え、朝礼や会議を通じ、職員に周知し実践に繋げている。	今は、できるだけ家族が参加できるように日程を調整している。曜日の変更や行事との同日開催等の工夫をし、より多くの方から意見を採りいれられるようにしている。	家族以外にも参加者を増やす検討を行い、より多くの意見を採りいれることで、利用者の生活の質向上につながることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故や病気の報告を通じ、連携を図っている。適宜、空室情報の報告も行っている。	運営推進会議には、市の担当者が出席しており、そこで相談したり、アドバイスをもらっている。申請書類提出等で役所に立ち寄った際には、担当者や情報交換をし、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、定期的な研修を実施している。玄関及び非常口に関しては施錠を行っている。	事業所内で研修を実施し、身体拘束に関する意識づけを強化している。施錠や鈴等は、安全が理由であっても、自由でない点では拘束にあたることを説明している。事例を採りあげ、身体拘束に対する会社組織としての認識を、職員と共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施し、意識の向上に努めている。また、職員同士で注意し合える職場環境作りを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は理解できているが、概ね把握できていない。今後の研修として取り入れていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時及び退去解約時には、その都度説明を行い理解できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者及びご家族が意見を言いやすい環境を整えられるよう努めている。吸い上げられた意見や要望に関しては、申し送りや会議を用いて職員に周知を図っている。	管理者は、家族の面会時には、できるだけ声を聴くように努めている。担当職員が伺ったことは、管理者にその状況を伝え、意見に対する対応は、申し送りノートや会議で職員に周知し、運営に反映できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、各ユニット毎の会議に参加し、職員と意見交換を行っている。また、個々の職員と話す機会も設け、意見や思いの共有に努めている。	管理者は話のしやすさを考慮して、面談ではなく夜勤時等に、何となく話ができるような雰囲気を作るよう心掛けている。どんなに小さな意見でも受け入れ、対応策を説明している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々と面談を通し、適宜アドバイスをし、就業意欲の向上に努めている。職員の個性も尊重しながら話すようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の現状の力量に応じ、社内・社外研修への参加を呼び掛けている。また、会議等の時間にケアや知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の他センターから業務支援に来てもらうことで、交流や互いのスキルアップに繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントで情報の収集に努め、本人が入居してから安心して生活できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族からも、要望や相談に応じ、安心して入居できるよう関わりを多く持つよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境に慣れることに重点を置き、その上で生活リズムを見極め、何を最初に必要としているか、見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることを奪わず、時間をかけても自分で行えるよう関わりを持っている。また、協力し合う関係も意識してもらえるように対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に、職員と会話する時間を設け、入居者の現状を把握してもらえるよう働きかけている。また、来られないご家族には、毎月手紙を通じて関わりが途切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や以前の近所に住んでいた方などの来訪は継続して頂いている。電話も、本人が理解できるよう説明し、話してもらおう関わっている。	友人の来訪は、家族に確認をしてから受け入れしている。家族には、利用者が事業所で暮らしていることを意識してもらおう為に、往診の報告は、あえて電話で行っている。面会を促し、関係を保てるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーション等を通じ、互いにコミュニケーションが図れるよう取り組んでいる。職員が会話のつなぎ役になり、楽しめる雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、他の施設や病院へ移った方に関しては、不定期ではあるが訪問し、本人との関わりを継続するよう努めている。ご家族からの相談がある時は適切に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の気持ちを聞く機会を持ち、その内容を職員間で共有している。聞き取りが難しくなった方に関しては、ご家族に確認したり、以前までの生活の仕方や考え方を元にしている。	生活歴、嗜好品等、入居前の情報を集め、参考にしている。利用者が困っていることに対し、対応に何か見落としはないか、職員本位になっていないかを考え、利用者をつかろうとする気持ちで検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴についての聞き取りを行う。入居後は、本人やご家族から新たな情報を聞き出すような関わりを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活については、介護記録を中心に把握し共有している。適宜アセスメントを実施し、状態の変化があった際は、申し送りやノートを用いて共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で、現状の把握とケアの方法について検討し、本人にとってより良いサービスが提供できるよう取り組んでいる。	アセスメントを基に、いろいろな職員からみた「～に困ってそう」「～さんは～をしたい」等の意見を取り入れ、介護計画を作成している。変化があった時は、その都度関係者と相談し、意見、アイデアを採り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを意識した介護記録の記入を心掛けている。ヒヤリハット記録や申し送りノートを活用し、内容の濃い情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じた食事の提供や、個別の夕食や外出等必要に応じて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容、歯科、マッサージ、フラワーアレンジメント等の訪問サービスを活用し、施設の職員との以外との関わりも大切にし、生活の幅が豊かになるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	センターでの往診は月二回(内科・心療内科)ずつ行っているが、整形外科や眼科、皮膚科等でなじみのある方は、継続して受診してもらっている。	利用者本人と家族の希望を聞いている。定期的なかかりつけ医の受診は、家族対応であるが、緊急時の初動は職員が対応している。家族のいない方の場合でも、本人から希望を確認して支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は取り入れていない。往診先の看護師に入居者の日々の気づきや相談は行っている。必要な場合は適宜受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は、病院に訪問や電話し、現状の把握に努め、退院後の生活が円滑にいくよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化や医療行為が継続して必要となりそうな状況になった時は、早めにご家族、医師と面談の場を設け、できること、できないことを明確に説明している。他サービスが必要な場合は、その管理者とも連携し、晩年を出来る限り安心して暮らせるよう心掛けている。	見学の段階から話題にし、契約時に事業所でできること、できないことを詳しく説明している。また、利用者が事業所での生活が難しくなった場合には、医師から話があり、家族が直接医師から状態の説明を受け、今後の相談ができる場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを用いて、どの職員でも適切に対応できるよう準備している。訓練の実施はできていないため、初期対応について認識や対応力を高めていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は適宜実施しているが、地域と連携しての非常災害時訓練は実施できていない。	避難訓練は年2回行い、その中で夜間想定も実施している。マニュアルは、各フロアごとに備え、職員間の連絡訓練や避難経路、避難場所の確認も行っている。地域住民と協力した訓練も実施したいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさや話す内容、その場所に配慮し、関わるよう意識している。	事業所内において、言葉使い等の接遇研修を実施し、本人が恥ずかしいと思わないような声掛けをするようにしている。苦手なことには、違う形での参加を促し、思いやりのある対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で、自己決定に繋げられるような働きかけ、問いかけをし、自己決定できる機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己表出の出来ない方や苦手な方には、職員から提案し、生きがいを持てる生活になるよう意識している。ただ、本人本位の生活の実現には、まだまだ考えなければならないと思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容で整髪している。外出時やイベント時を中心に、化粧等のおしゃれができるようにしている。日常の服装も、本人が着たい洋服を選んでもらうよう、働きかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手なメニューの時は別メニューで提供を。調理、盛り付け、片付け等出来ることを一緒に取り組んでもらっている。	利用者は、具材を刻む等の準備、後片付け等出来ることを一緒に行っている。毎月、食事やおやつでバイキング形式を採り入れ、自分で選んで食べる楽しみを作り、季節を感じられる様、行事食も大事にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が立てた献立を基に調理している。摂取量の少ない方には、補食し不足しないよう対応している。水分は、1日1000ccを目安に飲んで頂けるよう働きかけ、飲み物の種類を増やし、ゼリー等も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り本人の力で口腔ケアをしてもらっている。必要に応じ、声掛けや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にトイレ誘導を行う。個々の排泄時間の統計を取り、できるだけその方のタイミングに合わせて行っている。	利用者の排泄パターンを把握できるよう、チェック表をつけている。立位、座位ができるか等身体状況を確認して、どうすればトイレでの排泄が気持ちよくできるかの話し合いをしながら、個々に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を中心に、オリゴ糖の使用や散歩・体操も定期的に行い、トイレでの排便ができるよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に、毎日入浴できるようにしている。声掛けし、気持ち良く入浴できるよう働きかけている。	希望があれば、毎日入浴ができる。入浴を嫌がる場合は、面倒、脱ぐ時寒い等それぞれの理由を分析し、それをいかにほぐすかを検討している。タイミングや対応する職員を変える等工夫し、楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体を動かした後は休息を設け、夜間の睡眠に関しては、リネンの清潔保持に努めている。なかなか眠りにつきにくい方には、ラベンダーオイルを使用したり、マッサージしたり等対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に、服用している薬に関しては認識している。処方変更時や新しい薬に関しては、薬剤師に連絡し、気を付けることを確認し、情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主体的に生活してもらえよう働きかけを行っている。それぞれが出来ることを中心に行ってもらっている。寝てしまいがちな方への働きかけがまだ不足している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出る機会は、散歩やゴミ捨て、買い物を中心。1~2ヶ月に一度、外出や外食の計画を立てて行っている。ご家族との外出や外食、外泊も推奨し、その際に気を付けた方がよい事もアドバイスするようにしている。	外出は、外の空気を吸い、気分転換することを重視している。役割としてゴミ捨てをこなす、季節を感じる機会としても大事にしている。できるだけ希望にそって外出できるよう、その時の声かけで出かけたくない方には、別の楽しみを探して外出できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心できる方もいるため、多額にならないよう持ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は希望がある時は対応している。頻度が多い場合やご家族が把握されていない方への連絡については、確認ののち支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとに季節感を出す飾り付けを実践している。共有スペースの整頓が十分でないため、入居者のための生活スペースになるよう対応していく。	居間の床にクッション素材を導入し、安全面の配慮をしている。居室や居間以外に、皆から離れて過ごせる場所を作っており、テーブルに本を並べ、自由に読めるスペースがある。話題となるよう、廊下には利用者の写真をたくさん掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが見やすい席を設置したり、外の景色が眺められるように、廊下の窓側にイスを設置している。本が好きな方用に設置し、自由に読書してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物や見慣れた物を持ち込んでもらい、生活の開始から混乱しないよう働きかけている。また、適宜ご家族と相談し、掲示物等を飾っている。	あとから物を増やすことは難しいので、最初に環境を整えるようにしている。以前過ごしていた部屋にあった物、貼っていた注意書き等、今は使わなくても置いて、昔なじみの空間となるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現状では、自立した生活のための環境作りは十分に行えていない。入居者の皆さんの自立支援に向けて取り組んでいきたい。		